

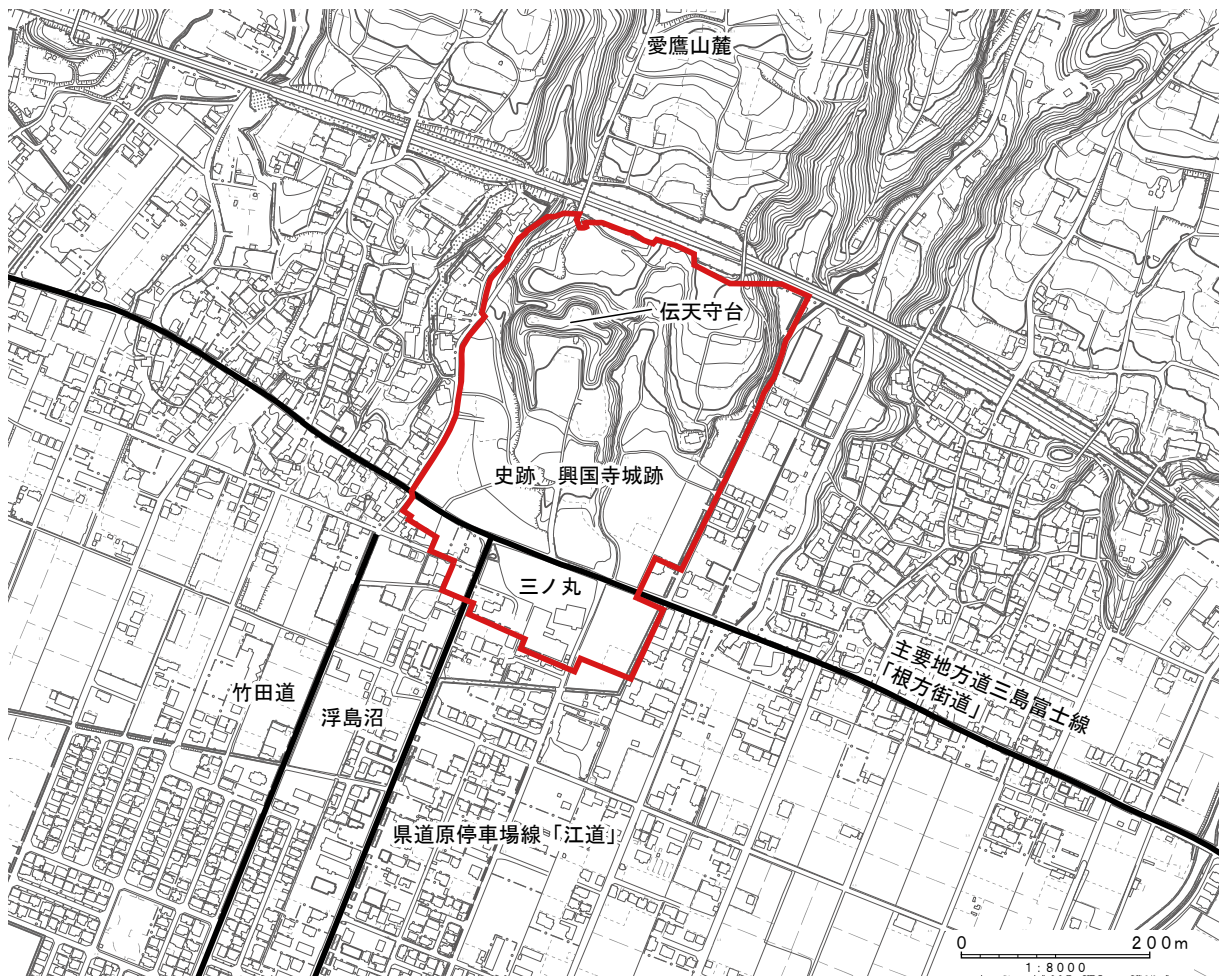
第2章 興国寺城跡を取り巻く環境

2-1 地理的環境

興国寺城跡は沼津市域の北西部、根古屋字古城及び字清水を中心に所在する。愛鷹山の尾根の先端部に築城されており、城郭の南側はかつて浮島沼と呼ばれた低湿地に面し、外堀は山麓地域と低湿地の境目にあたる。

愛鷹山麓から富士山麓沿いにかけての集落は、山の「根」に分布することから「根方」と呼ばれ、集落を結んで山裾を東西に横断する主要地方道三島富士線は「根方街道」と通称されている。この根方街道は富士市の旧吉原地区から三島方面を結ぶ古くからの主要な幹線であった。かつての道は山裾際を地形に沿って曲がりながら通じており、道沿いには弥生時代以降、集落が展開していた。興国寺城跡では、この街道が戦前に直線化された際、街道を三ノ丸内に通過させてしまったことから、現在の三ノ丸跡は道路によって分断されている。

駿河湾沿いの千本砂礫州上にも、古くから東西を結ぶ道が通じており、江戸時代には東海道として整備され宿場町が栄えた。現在では、根方街道と東海道を南北に結ぶ県道原停車場線が通じており、かつては「江道」と呼ばれ、現在は「興国寺城通り」と通称されている。かつてはこの道より西に「竹田道」と呼ばれる道も存在しており、興国寺城跡は古来より海沿いと山沿い2つの道を結ぶ北側の結節点に位置している。



第 2-1 図 興国寺城跡周辺地形図（赤線枠は指定範囲）

2-2 自然環境

(1) 地質

興国寺城跡が位置する愛鷹山は、10万年前に活動を終えた成層火山である。その火山活動は、現在の富士山に覆われている小御岳火山とともに40万年前頃から開始したと考えられている。火山の形成は旧期・中期・新期・最新期に分類される。旧期は主として玄武岩質溶岩と凝灰角礫岩から成り、愛鷹火山の基盤を構成している。中期は火山活動が比較的不活発な時期で、主として凝灰角礫岩と扇状地堆積物から成っており、火山麓扇状地が広く形成された。新期は前半に玄武岩質溶岩、後半に安山岩・デイサイト質の溶岩を噴出し、最新期にはデイサイト質の溶岩ドームを形成しその活動を終了している。

火山活動を終えた愛鷹山麓には、その後も活発な火山活動を続けた古期富士（小御岳火山）や箱根火山のテフラが堆積し、厚いローム層を形成している。特に旧期・中期の火山活動で流出した玄武岩と凝灰角礫岩の緩斜面部にはこのテフラが厚く堆積し、緩やかな扇状の緩斜面を形成している。このローム層は愛鷹ローム層と呼ばれているが、地質学的な不整合面の存在により、上位から現世腐植質火山灰層・上部ローム層・中部ローム層・下部ローム層に区分されている。

興国寺城跡では、現世腐植質火山灰層・上部ローム層・中部ローム層、角礫層を挟む下部ローム層、基盤となる角礫凝灰岩層が確認されている。詳細な調査は行っていないが、基盤層上位の角礫層を挟むローム土が下部ローム層に相当すると認識している。

興国寺城跡の最終段階における本丸から三ノ丸にかけての主要曲輪群は中部ローム層までを一度削平してからの造成が行われている。このため、最終段階以前の遺構の大半は削平を受けてしまっており、本丸・二ノ丸においては、堀などの地中に深く掘りこむ遺構を除いて最終段階より古い遺構は検出されない。また興国寺城跡で最も深く掘られている大空堀では、その深さは地表面から約15mに及ぶ。上部ローム層から掘削され、愛鷹山の基盤となる岩盤層まで到達し、さらにこの角礫凝灰岩層を数メートル掘削している。

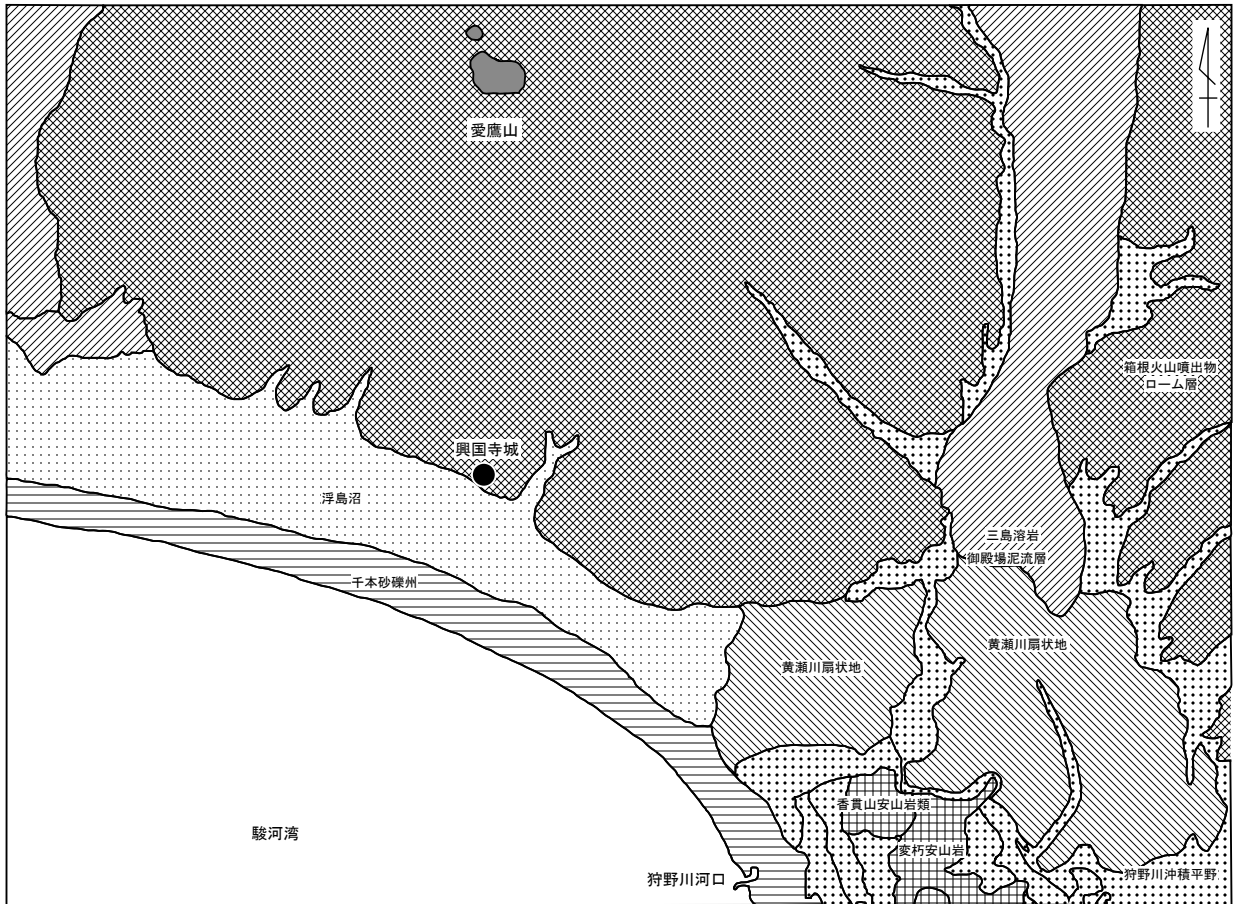
(2) 気候

沼津市は年間を通じて温暖な気候に恵まれた地域で、令和元年から令和5年までの5か年の沼津南消防署の気象データ（『消防年報』令和2年～令和6年（駿東伊豆消防本部、令和3年～令和7年発行））によれば、年間の平均気温は17.57℃（5か年平均）で、夏冬の気温差が小さい気候となっている。降雨量は1,916ミリメートル（5か年平均）であり、6月から7月の梅雨の時期や9月から10月の秋雨・台風シーズンは特に雨量が多くなる。

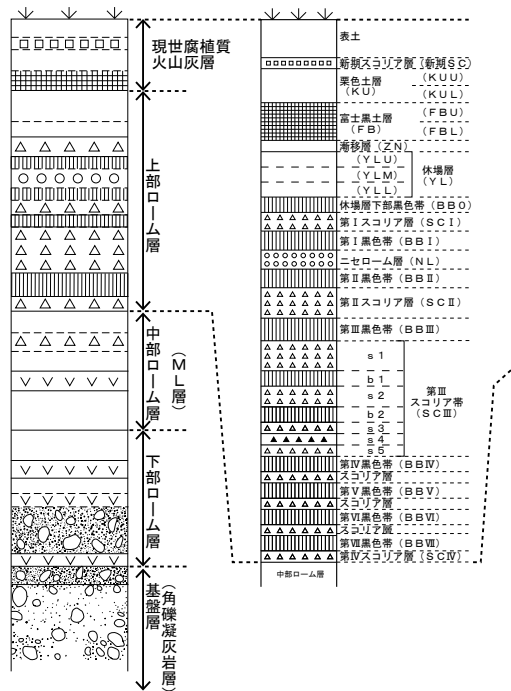
風向きは、狩野川河口付近のデータによれば、駿河湾側から吹く西寄りの風と、箱根方面から吹く東の風が卓越する。特に西南西・南西の風は平均風速12m/s以上の強風の頻度が高く、冬季に強い西寄りの季節風が吹きつけている。興国寺城跡の本丸は巨大な土塁に風が遮られるが、伝天守台などの高台は強風にさらされる。日照時間は、隣接する三島市にある気象台の観測データによると年間2,000時間を超えており、全国的に見れば日照時間は長い地域といえる。

(3) 植生

本市では、山地や低地、河川、海岸などの多様な地形を有し、海岸部の温暖な地域から愛鷹山山頂部の冷涼な山地までの広い気候環境があることから、これに応じた植生が分布しており、城跡が所在する愛鷹山の麓ではクスノキやシイなど薪炭材等として利用されてきた常緑広葉樹が分布している。また、外堀が位置する浮島低地では、ヨシなどの湿地植物や水生植物が生育し、さらにこの低地の南面の海岸



第 2-2 図 興国寺城跡周辺の表層地質図



第 2-3 図 愛鷹ローム層準の基本土層と標準土層断面写真

部には千本松原と呼ばれる植林されたクロマツ林が広がっている。

興国寺城跡内では、平成27・28年度において主要曲輪の植生調査を業務委託にて実施した。調査エリアは今後伐採等が想定される本丸から三ノ丸東側にかけての土塁及び大空堀(①②:A東。③④:A北。⑤:A西)、神社地(B)、かつて住宅が存在した地点(C)である。また後述する第1期の整備予定地であるAエリアの伝天守台及び本丸土塁と大空堀については「②・④・⑤」とし、それぞれの区域内の詳細な特徴を把握した。以下、調査成果について作成者の報告書に基づき記載する。

調査地全体ではシダ植物10科15種、種子植物78科170種が確認された。エリア別の状況としては、A東の南側はモウソウチク林となっており、北側の西縁ではイチョウ、ヒマラヤスギ等の植栽由来の種がみられた。東斜面はコジイ、スダジイ、等の照葉樹林となっており、立木本数が多く、林冠が完全に閉鎖している。

A北は、空堀をはさんだ深さ15m程度のV字状の谷になっており、斜面にはほとんど亜高木、低木はみられなかった。立木本数は少ないが、林冠は完全に閉鎖している。南側の伝天守台跡に面した林縁には、オオシマザクラ、ヒノキ、クヌギ等、植栽由来の種がみられた。東側の尾根につながる部分には、クスノキ、コジイ、タブノキ等がみられ、西側の尾根につながる部分には、コジイ、スダジイ、ヒノキ、タブノキ等がみられた。

A西は、主にコジイ、スダジイ、オオシマザクラ等がみられ、混交林となっている。立木本数が多く、林冠が完全に閉鎖している。

②エリア：コジイ-スダジイ群落

高木層にクスノキ、コジイ、スダジイが優占する常緑広葉樹林である。群落組成調査地点の植生高は10～16mで、出現種数は39種であった。高木層の植被率は100%でクスノキが優占し、コジイ、スダジイ、エノキ、ハリギリ等が出現する。亜高木層の高さは5～10m、植被率は50%でヤブツバキ、コジイ、ニガキ等が出現する。低木層の高さは2～3m、植被率は10%と低かった。アオキ、ヤブツバキが出現する。草本層の高さは0.1～1m、植被率は90%でアズマネザサ、キチジョウソウ等が出現する。

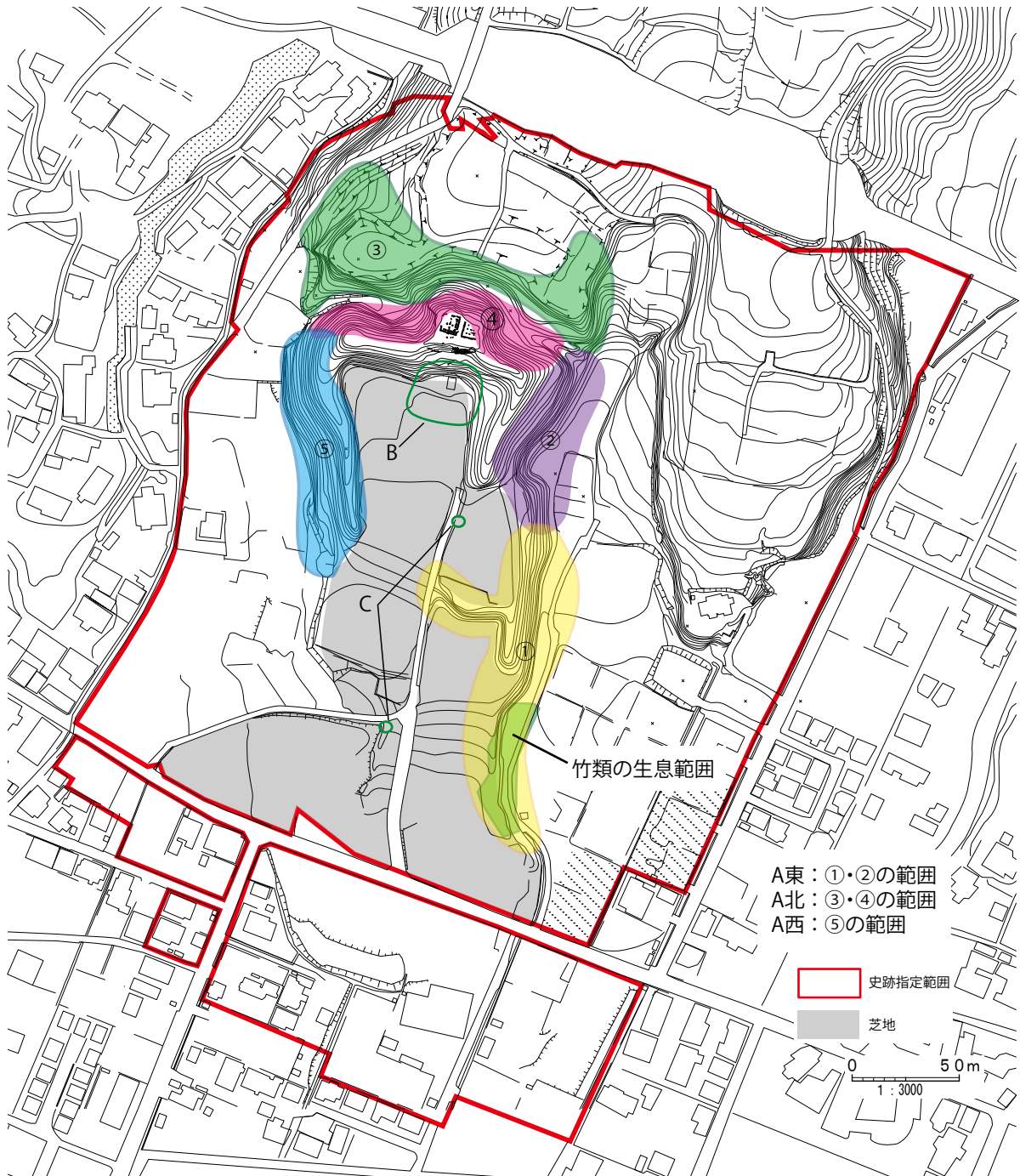
④エリア：ケヤキ-アズマネザサ群落

高木層にケヤキ、クヌギ、オオシマザクラ等が優占する落葉広葉樹林である。群落組成調査地点の植生高は13～23mで、出現種数は55種であった。高木層の植被率は100%でケヤキが優占し、クヌギ、オオシマザクラが出現する。亜高木層の高さは8m、植被率は5%でヒノキ、コナラが出現する。草本層の高さは0.3～1m、植被率は90%でアズマネザサ、ミゾシダ、イヌビワ、カラスウリ等が出現する。

⑤東エリア：コジイ-スダジイ群落

高木層にスダジイ、コジイ、オオシマザクラ等が優占する混交林である。群落組成調査地点の植生高は10～22mで、出現種数は27種であった。高木層の植被率は100%でスダジイが優占し、コジイ、オオシマザクラ、ハゼノキ、クヌギが出現する。亜高木層の高さは5～9m、植被率は40%でタブノキ、コジイ、オオシマザクラが出現する。低木層の高さは2～3m、植被率は30%と低かった。タブノキ、ハゼノキが出現する。草本層の高さは0.3～1m、植被率は50%でアズマネザサ、テイカカズラ、ベニシダ等が出現する。

自然に対する人為的影響の程度として、調査地はシイ、カシ萌芽林であり、植生自然度区分概要(環境庁、1976年)の区分によると、自然度8、すなわち二次林(自然に近いもの)で「ブナ、ミズナラ再生林、シイ、カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区」と判定される。



第2-4図 興国寺城跡植栽・樹木現況図



第2-5図 興国寺城跡植栽・樹木現況写真（左：高尾山穂見神社 右：本丸・二ノ丸土塁）

第2-1表 興国寺城跡植物現地確認種

分類			科名	種名	A 東	A 北	A 西	B	C
シダ植物			イノモトウ	アマクサシダ		○			
			イワデ ^ン ダ	イヌワラビ		○			
				シケシダ		○			
				ハラシダ		○			
			オシダ	オニカナワラビ		○			
				ハ ^ニ シダ	○	○	○		
			シシガ ^シ ラ	コモチシダ	○	○			
			チャセンシダ	トラノオシダ	○				
			ゼ ^ン マイ	ゼ ^ン マイ		○	○		
			ハナヤスリ	オオハナワラビ		○			
			ヒメシダ	ヒメワラビ		○			
				ホシダ	○	○	○		
				ミゾ ^シ ダ	○	○			
			フサシダ	カニクサ	○	○			
			ホウライシダ	タチシノブ		○			
種子植物	裸子植物		イチヨウ	イチヨウ	○				
			ヒノキ	カイヅ ^{カイ} フ ^キ				○	
				スギ	○	○		○	
				ヒノキ	○	○		○	
			マキ	ナギ				○	
			マツ	イヌマキ	○				
				クロマツ			○		
				ヒマラヤスギ	○				
	被子植物	単子葉植物	イヌサフラン	ホウチャクソウ	○				
			イネ	アシカキ			○		
				アシホ ^ソ		○	○		
				アズ ^マ ネサ ^サ	○	○	○		○
				キンエノコロ		○			
				キンメイチク			○		
				クサヨシ			○		
				ササガ ^ヤ			○		
				ジ ^ユ ズ ^ダ マ		○			
				ススキ		○			
				チカラシハ	○	○			
				チヂ ^ミ ザ ^サ		○			
				ニガ ^ナ			○		
				ヌカキビ		○			
				メリケンカルカヤ			○		
				モウソウチク	○				
			ガ ^マ	ヒメガ ^マ			○		
			カヤツリグ ^サ	シラスグ ^サ		○			
				スグ ^{sp}		○			
				ナキリスグ ^サ		○			
			キシ ^カ クシ	カブ ^タ チジ ^ヤ ルヒグ ^サ	○	○	○		
				キシジ ^ヨ ウソウ	○	○			
				ジ ^ヤ ルヒグ ^サ		○	○		
				ナルコユリ	○				
			ススキノキ	ヤブ ^{カン} ゾ ^ウ		○			
			ツユクサ	ツユクサ		○			
				ヤブ ^ミ ヨウガ	○	○			
			ヒガ ^ン ハ ^ナ	タマスダ ^レ				○	
				ヒガ ^ン ハ ^ナ		○		○	
			ヤシ	シュロ	○		○		
			ヤマノイモ	オニト ^コ ロ	○	○			

分類			科名	種名	A 東	A 北	A 西	B	C
種子植物	被子植物	単子葉植物		ヤマノイ		○			
			ラン	シュンラン			○		
種子植物	被子植物	双子葉植物	アオイ	アオイ	○		○	○	
			アカネ	アカネ		○			
				アリト オシ		○	○		
				ヘクソカス ラ		○			○
			アケビ	アケビ	○	○	○		
				ミツハ アケビ	○				
				ムハ		○			
			アサ	エノキ	○	○	○		○
				カナムゲ ラ		○			
				ムクノキ	○	○	○		○
			アジ サイ	アジ サイ			○		
				マルハ ウツギ		○			
			イラクサ	クサマオ	○	○			
				ヤブ マオ	○		○		
			ウコギ	キツ タ		○			
				タラノキ		○	○		
				ハリキ リ	○	○	○		
				ヤツデ	○		○		
			ウマノスス クサ	オオハ ウマノスス クサ	○	○	○		
			ウリ	カラスウリ	○	○			
			ウルシ	ヌルデ	○				
				ハゼ ノキ	○	○	○		
				ヤマハゼ			○		
			エゴ ノキ	エゴ ノキ	○				
			オシロイハ ナ	オシロイハ ナ	○				
			カキノキ	カキノキ	○	○	○		
			キキョウ	ツルニンジン	○				
			キク	アキノノゲ シ			○		
				コセンダ ング サ		○			
			キク	セイタカアワダ チソウ		○			
				トネアザ ミ		○	○		
				ノコンギ ク		○			
				ヒメムカシヨモギ				○	
				ヒヨドリハ ナ		○			
				フキ		○			
				ムラサキニガ ナ		○			
				ヨモギ		○			
			キツネノマゴ	キツネノマゴ		○			
			キブ シ	キブ シ		○			
			キョウチクトウ	テイカカス ラ		○	○		
			キンボ ウゲ	コホ タンツ ル		○			
			クスノキ	カゴ ノキ	○				
				クスノキ	○	○	○		
				タブ ノキ	○	○	○		
				ヤブ ニッケイ	○	○	○		
			クマツツ ラ	ヤブ ムラサキ		○			
			ゲ ミ	ツルゲ ミ		○			
				ナツゲ ミ			○		
			クワ	イタビ カス ラ		○			
				イヌビ リ	○	○	○		
				クワクサ		○			
				ヒメコウゾ		○	○		
				ヤマグ リ		○			

第2章 興国寺城跡を取り巻く環境

分類			科名	種名	A 東	A 北	A 西	B	C
種子植物	被子植物	双子葉植物	ケシ	ケシ		○			
			サクラソウ	マンリョウ		○	○		
			サルトリア	サルトリア	○	○			
				シオデ	○	○			
			シソ	クサキ		○	○		
				ムラサキ		○	○		
			スイカズラ	オトコエシ					○
				スイカズラ	○	○			
			スミレ	スミレ		○			
			センリョウ	センリョウ	○		○		
			タデ	ナガハナキ		○			
				マコノシ		○			
				ミゾソバ			○		
			ツツジ	ヒラツツジ				○	
				イチヤクソウ			○		
			ツツジ	アツツジ		○			
			ツバキ	ツバキ	○			○	
				ヤブツバキ	○	○	○	○	
			トウダイグサ	アカメ	○	○	○		
			トクサ	トクサ	○	○			
			トベラ	トベラ	○				
			ナス	タマシ		○			
				ヒヨドリ		○			
			ニガキ	ニガキ	○				
			ニシキギ	ツルウメ		○	○		
				マサキ	○				
				マユミ	○				
			ニレ	ケヤキ	○	○	○		
			ハイノキ	クロハ			○		
			ハナ	オシマ	○	○	○	○	○
				キイチ		○	○		○
				クサ		○	○		
				コメ		○			
				ソメイ		○		○	
				テリハ			○		
				ナシ		○			
				ヒ		○			
				フ		○			
			ヒユ	イノ	○	○			
			ビ	ヤ		○			
			ブ	エ		○			○
				ノ	○	○			
				ヤ	○		○		
			ブ	ア	○	○	○		
				ア	○				
				ク	○	○	○		
				ク	○	○	○		
				コ	○	○	○		
				コ	○	○	○		
				シ		○			
				ス	○	○	○		
			マ	サ	○	○			
				シ			○		
			マ	オ		○			
				ク	○				

分類			科名	種名	A 東	A 北	A 西	B	C
種子植物	被子植物	双子葉植物		ヌビ ^ト キ ^ト		○			
				ネム ^ノ キ	○		○		
				フジ ^ノ		○	○		
				ヤブ ^ノ マメ		○			
			ミカン	イヌサ ^ノ ショウ			○		
				カラスサ ^ノ ショウ	○	○	○		
			ミズ ^ノ キ	クマノミズ ^ノ キ		○			
			ミソハキ ^ノ	サルスハ ^ノ リ			○		
			ミツハ ^ノ ウツキ ^ノ	ゴ ^ノ ズ ^ノ イ	○	○			
			ムクロジ ^ノ	トウカエ ^ノ テ	○				
			メイ ^ノ	ナンテン		○			
			モクセイ	トウネズ ^ノ ミモチ	○				
				ヒイラキ ^ノ			○		
			モクレン	ホオ ^ノ ノキ		○			
			モチノキ	クロガ ^ノ ネモチ	○	○	○		
				モチノキ		○			
			モッコク	ヒサカキ	○	○	○		
				モッコク		○			
			ヤナキ ^ノ	イイキ ^ノ リ		○			
			ユキノシタ	ユキノシタ	○				
			レンブ ^ノ クソウ	ガ ^ノ マズ ^ノ ミ	○	○			

(4) 動物

本市では、愛鷹山、浮島、小鷲頭山野鳥保護区、奥駿河湾沿岸などが野生動物の重要生息地となっており、富士箱根伊豆国立公園、愛鷹山自然環境保全地域、鳥獣保護区などの指定によって生息保護が行われている。

第2次沼津市環境基本計画によれば、市内では、1,047種（哺乳類25種、鳥類275種、爬虫類16種、両生類12種、魚類321種、昆虫類129種、貝類78種、甲殻類などその他の動物191種）の動物の生息が確認されており、そのうち182種が、絶滅の可能性がある動物として、静岡県レッドリストや環境省レッドリストに掲載されている。哺乳類として大型のツキノワグマやニホンジカ、中型のキツネやタヌキ、小型のネズミやモグラ類などが確認されている。鳥類はアオゲラやメジロなどの周年観察できる鳥のほか、夏鳥・冬鳥などの渡り鳥が市域で観察できる。愛鷹山などの山地にはタカ類が生息し、川や池は越冬のためカモが飛来する。海にはユリカモメが飛び交い、海岸にはサギやカワウが生息している。浮島沼のあった低地帯は野鳥観察地として知られ、原地区の西部浄化センター近くには、冬季に百数十種類に及ぶ野鳥が集結するといわれており、さらにこの付近のアシ原は全国有数のツバメのねぐらとしても知られている。

興国寺城跡内では平成28年度の調査の結果、哺乳類2目4科4種、鳥類7目17科24種、両生類1目1科1種、爬虫類2目3科5種、昆虫類5目13科29種、陸・淡水産貝類1目2科2種が確認された。このうち「まもりたい静岡県の野生生物 動物編2019」に記載されている種及び「環境省レッドリスト2015」に記載されている種として、鳥類ではオオタカ、両生類ではアズマヒキガエルが確認されている。

2-3 歴史的環境

(1) 沼津市内の歴史的環境

沼津市域の愛鷹山麓は主に旧石器時代から古墳時代にかけての遺跡の密集地帯として知られている。これは、東名高速道路などや愛鷹広域公園などのインフラ・社会基盤の建設に伴う埋蔵文化財調査が行われてきたことによる成果である。特に桃沢川と高橋川に挟まれた愛鷹山の南東麓は傾斜が緩いことから現代の開発も多く、遺跡調査が集中している地域であり、遺跡の発見例も多い。一方、興国寺城跡が位置する南西麓は、山の傾斜はきつく、河川の開析も進んでいる地域である。

【旧石器時代】

興国寺城跡の西3kmに位置する井出丸山遺跡は、SCⅣ～BBⅦ層において石器が出土し共伴する炭化物の年代測定値が約38,000年前であることから、日本最古級の旧石器時代遺跡として知られている。

【縄文時代】

縄文時代においても愛鷹山麓では、葛原沢第Ⅳ遺跡などの草創期段階の遺跡をはじめ、縄文時代早期から前期までは遺跡数も多い。しかし中期以降、遺跡数は減少する傾向にある。後期には千本砂礫州の形成に伴って、砂礫州上にも遺跡が認められるようになる。

【弥生時代】

沼津市域の前期・中期の遺跡数は少ない状況であるが、後期以降飛躍的に遺跡数が増加し、愛鷹山の尾根上や低地にも大きな集落が形成される。愛鷹山麓の弥生時代後期の遺跡群は「足高尾上遺跡群」とも呼ばれ、各尾根に広がる建物跡のほか遺跡群内の八兵衛洞遺跡などでは集落の北側に複数の尾根を横断する大規模な溝状遺構が検出されるなど、単独の尾根にとどまらない集落構成が認められる。

【古墳時代】

集落遺跡は千本砂礫州上や狩野川沖積平野にその中心を移し、愛鷹山麓地域、千本砂礫州、狩野川



第 2-6 図 周辺遺跡図 (S=1/25,000)

第 2-2 表 周辺遺跡一覧表

No	遺 跡 名	所 在 地	時 代	種 別	遺 構 ・ 遺 物 等
1	古城	根古屋字古城	縄文～古墳	集落跡	石棒・石錘、弥生土器、土師器
2	根古屋清水	根古屋字清水	弥生～古代	集落跡	削器・礫器、縄文土器、弥生土器、土師器
3	根古屋丸尾	根古屋字丸尾	縄文～弥生	集落跡	1955 田子ノ浦高校踏査。縄文土器、弥生土器
4	中アラク	根古屋字中アラク	古墳	集落跡	土師器
5	根古屋古墳群	根古屋	古墳	古墳群	
6	魔王第六天古墳	根古屋字丸尾	古墳	古墳	円墳
7	光厳寺沢	根古屋字光厳寺沢	縄文	集落跡	縄文土器、打製石斧
8	丸尾古墳群	根古屋字丸尾	古墳	古墳群	円墳
9	秋葉林	青野秋葉林	旧石器～中世	集落跡	BB VII層石器群、礫群。ナイフ形石器、尖頭器、細石刃等。草創期尖頭器群。縄文土器、土師器
10	的場	根古屋字的場・木戸上	旧石器・縄文・古墳・古代	集落跡	1999～県教委調査。石器ブロック、礫群、住居跡(縄文・平安)。縄文土器、石鏃・尖頭器ほか、土師器、灰釉陶器
11	的場古墳群	井出銭神	古墳	古墳群	旧名「銭神古墳群」。円墳。組合せ式箱形石棺。1999～県教委調査。
12	測ヶ沢	根古屋字測ヶ沢	旧石器・縄文・古墳～	集落跡	2003 調査。石器ブロック・礫群。台形様石器、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃ほか、縄文土器（早期前半～晩期）、尖頭器、トロトロ石器、石鏃ほか、土師器、須恵器、灰釉陶器。県教委も調査
13	銭神	井出字銭神	縄文～弥生	集落跡	2012 県教委調査。ナイフ形石器、縄文土器、尖頭器等
14	銭神第Ⅱ	井出字銭神	旧石器・縄文	集落跡	2015 市教委調査。細石刃ほか、縄文土器、石鏃、磨石等
15	銭神南	井出字銭神	縄文	集落跡	縄文土器、石棺
16	段崎	井出字段崎	縄文・古墳	集落跡	縄文土器、石匙、土師器
17	閑峰	井出字閑峰	弥生	出土地	小銅鐸（東京国立博物館蔵）、弥生土器
18	井出古墳群	井出字段崎	古墳	古墳群	
19	堀込	井出字堀込	古墳	古墳	円墳・土器
20	段崎古墳	井出字段崎	古墳	古墳	旧名「堀込橋上古墳」、円墳
21	井出 2 号墳	井出字段崎	古墳	古墳	
22	井出 4 号墳	井出字焼畑	古墳	古墳	1979 調査。刀子
23	井出古墳	井出字焼畑	古墳	古墳	1966 調査。東名高速建設で消滅。金環、玉類、金具類、鉄鏃、須恵器
24	二ツ塚古墳	井出字二ツ塚	古墳	古墳	円墳、金環、玉類、鉄鏃、須恵器、環頭大刀柄頭
25	焼畑	井出字焼畑	縄文	集落跡	1953 沼津女子高踏査。縄文土器
26	焼畑古墳	井出字焼畑	古墳	古墳	旧名「東井出浅間神社北方古墳」。円墳、直刀、鉄鏃、金環、玉類
27	北畑	井出字北畑	弥生	集落跡	1959 沼津女子高踏査。弥生土器
28	馬場地下式横穴群	井出字馬場	古墳	横穴群	地下式横穴 5 基（うち 1 基埋没）
29	阿野氏館	井出字馬場	中世	城館	土塁が残存。伝阿野全成親子の墓
30	井出丸山	井出字堀込	古墳	集落跡	2005・2006 市教委調査。SC IV～BB VII層より国内最古級の石器群。
31	丸山橋上	西井出	縄文	集落跡	縄文土器

『沼津市史 資料編 考古』及び『沼津市埋蔵文化財分布地図』より作成

沖積平野、南部海岸地域には古墳・横穴が分布する。根方沿いには、東日本最古級の前方後方墳である高尾山古墳が築造されるほか、愛鷹山の尾根上は後期～終末期古墳が密集している。興国寺城跡の周辺にも根古屋古墳群、丸尾古墳群、的場古墳群、井出古墳群などの後期古墳群が分布している。

【奈良・平安時代】

狩野川下流域には上ノ段遺跡、御幸町遺跡などの大規模集落や古代寺院（日吉廃寺跡）が認められることから、沼津は駿河国の中心地の一つであったと考えられる。また駿河湾を望む砂礫州上にも古墳時代後半から大規模集落遺跡が形成されている。興国寺城跡周辺では、尾根上の的場遺跡から建物跡が検出されており、山麓にも依然として集落が形成されているところもある。

【鎌倉・室町時代】

中世以前から沼津は東西を結ぶ交通の要衝であり、愛鷹山の山裾を走る根方道、砂礫州上には、のちの東海道が通過していた。当該期の遺跡の発掘例は少ないが、こうした主要道沿いの遺跡においては、中世の陶磁器が出土する事例もある。その一例として、東海道のやや北側に位置する西通北遺跡では、遺構については明らかではないものの、国産陶磁器や貿易陶磁が出土している。

【戦国時代・江戸時代】

沼津周辺は駿河・甲斐・相模・伊豆の境目の地域として政治的にも軍事的にも重要な位置にあった。興国寺城の前を通過する根方道沿いには、東熊堂砦・天神ヶ尾砦・長久保城などが沿線に築かれている。また、狩野川から黄瀬川にかけてのあたりが駿河と伊豆の国境で、狩野川下流には武田氏が築いた三枚橋城、海岸部には北条水軍の基地となった長浜城などがある。江戸時代に入ると天野興国寺藩、大久保沼津藩が成立したが、江戸時代初期に相次いで改易となり、城は廃城になった。しばらくは城下町としての発展はなかったが、東海道の整備に伴って沼津宿・原宿が設置され、宿場町として繁栄することになる。そののち水野氏が沼津に封ぜられ、沼津宿を取り込みながら城下町を形成し幕末に至っている。

（2） 周辺市町の主な城郭

興国寺城は長期に利用されていたことから、関連する城郭も多い。ここでは、現在も見学が容易な周辺市町の城郭のみを対象とする。これら城郭との連携活用方針については、第6章にて記す。

【小田原北条氏関連の城郭】

興国寺城は小田原北条氏の祖である北条早雲（伊勢宗瑞）旗揚げの城として著名である。周辺市町には北条氏に関連する国史跡の城郭として、北条氏の首都である小田原城跡（神奈川県小田原市）、伊豆国の拠点城郭である韮山城跡（伊豆の国市・国史跡）、箱根峠に構えられた山中城跡（三島市・国史跡）がある。また静岡県内では北条氏と縁戚関係にあった葛山氏の本拠である葛山城跡（裾野市・市史跡）、山中城跡とともに小田原を守る防戦線として機能した足柄城跡（小山町・県史跡）、下田城跡（下田市・市史跡）も関連する史跡として挙げることができる。

【今川氏・武田氏・徳川氏・豊臣氏関連の城郭】

県内の城郭は、複数の大名等によって繰り返し用いられた城郭も多く、ここでは、今川氏・武田氏・徳川氏・豊臣氏の4大名に関わる城郭を取り上げる。

駿河国内では、未指定ではあるが、今川氏・武田氏・徳川氏・豊臣氏によって駿河国の国府の城として用いられた駿府城跡（静岡市）があるほか、今川氏と北条氏の富士川以東をめぐる争いである「河東一乱」時に今川氏の前線拠点として用いられた蒲原城（静岡市・市史跡）がある。

また直接的なつながりは薄いものの、興国寺城跡と同様に武田氏・徳川氏によって築城・改修された国史跡である諏訪原城跡（島田市）や高天神城跡（掛川市）は、県内の戦国期の城郭としては著名である。

そして豊臣氏が天下統一を果たしたことで、東海道沿いの拠点的な城郭は織豊系城郭として石垣や瓦葺建物などが整備されていくことになる。興国寺城跡もそのうちの一つであるが、興国寺城跡と同時にこのような整備が行われたとされる城郭には、先述した駿府城跡、掛川城跡（掛川市）、横須賀城跡（掛川市・国史跡）、久野城跡（袋井市・市史跡）、浜松城跡（浜松市・市史跡）、二俣・鳥羽山城跡（浜松市・国史跡）がある。

2-4 社会的環境

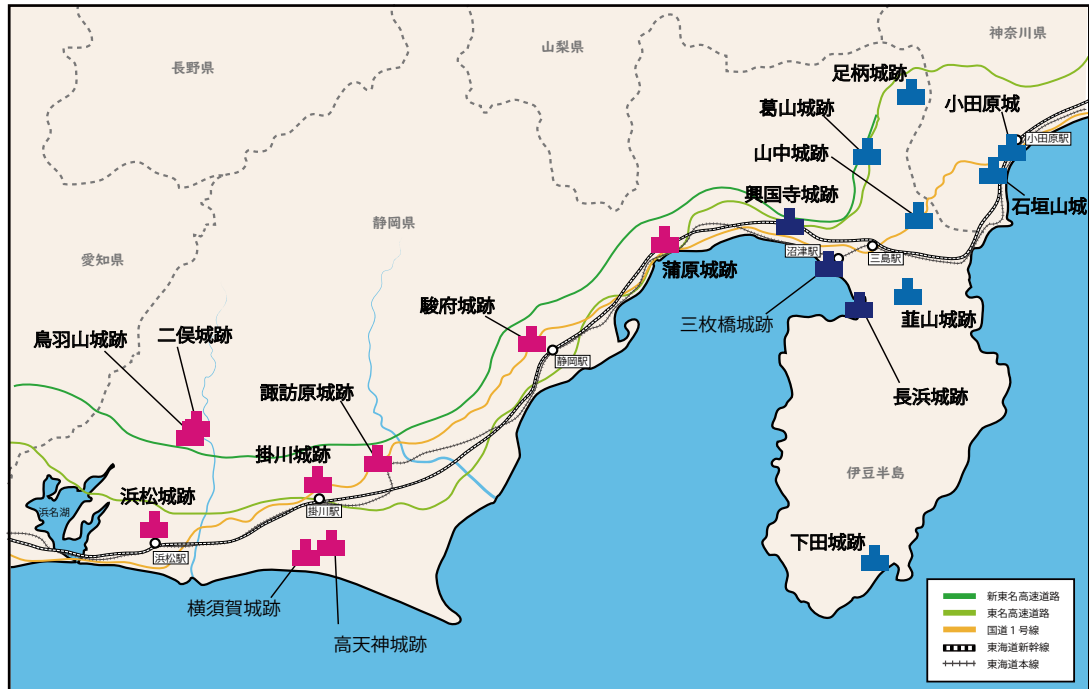
（1）沼津市の市勢

【行政区域の変遷】

興国寺城跡廃城後の江戸期には城地は根古屋村の一部となり、さらに明治22年に根古屋村ほか6村が合併して浮島村が発足、昭和30年には浮島村と原町と合併して原町の一部となった。一方、江戸時代には東海道の沼津宿として栄えた沼津は、東海道線が開通した明治22年に沼津本町ほか4村が合併して沼津町として発足したのち、大正12年には沼津町と現在の香貫地区である楊原村と合併して沼津市が誕生した。さらに沼津市は昭和19年に片浜・金岡・大岡・静浦の4村と、昭和30年には愛鷹・大平・内浦・西浦の4村と合併して「商都・沼津」として賑わい、そして昭和43年には原町と沼津市が合併することで、原・浮島地区は沼津市の一部となった。以後沼津市は戸田村との合併もありながら静岡県東部の中心的な都市として機能している。

【人口】

沼津市の人口は、平成7年の217,856人をピークに減少に転じ、令和7年3月には184,563人へと減少している（市民課住民基本台帳より）。国の推計では令和22年に約145,000人まで減少するものと見込まれ、令和2年3月改訂の「沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によると、市の人口減少抑制にかかる施策などにより、出生率と純移動率の目標が達成された場合でも165,900人とさ



第 2-7 図 周辺城郭分布図

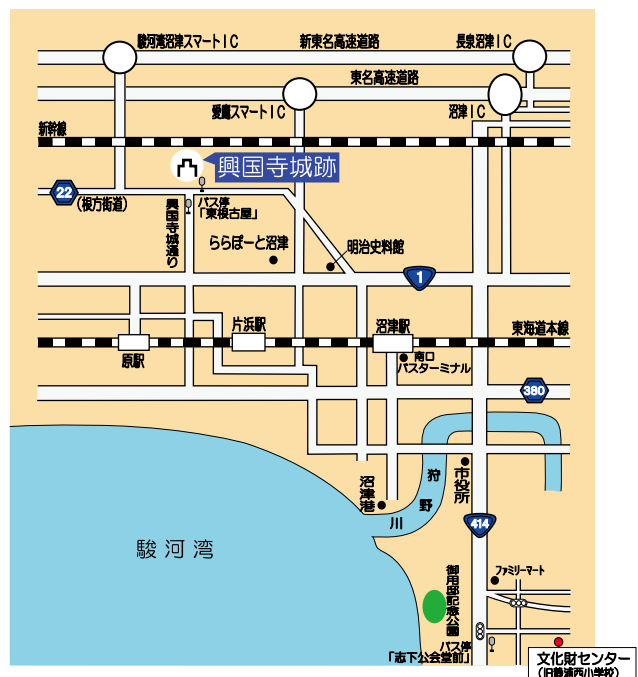
れる。興国寺城跡が所在する浮島地区は令和7年3月現在、世帯人員は5,258人で、10年前となる平成27年3月段階の5,979人から約12%減となっている。

人口減少が進む一方、『静岡県の観光交流の動向』によれば、本市の観光交流客数は平成29年度(2017)に462万人に達し、令和2年度から令和4年度では新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり大幅に減少したが、令和5年度には366万人(前年度比111.8%)まで回復している。

(2) 交通と城跡へのアクセス

沼津市には、東名沼津ICや愛鷹スマートIC、駿河湾沼津スマートIC、JR沼津駅が立地し、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号、JR東海道本線が市域を東西に貫いている。

興国寺城跡へのアクセスは、JR原駅より路線バスで約15分、興国寺城跡の三ノ丸内に所在する「東根古屋」下車もしくはJR沼津駅から路線バスで約40分、同じく「東根古屋」となる。ただし1時間に1本程度の運行であることから、徒歩での来場者も多い。自家用車の場合は、国道1号から原東町交差点を北へ5分、あるいは高速道路利用の場合、駿河湾沼津スマートICから約15分、愛鷹スマートICから約15分である。富士市境に近い史跡ではあるが、スマートICが開通するなど近年の交通事情の変化もあり、比較的アクセスが容易な史跡である。



第 2-8 図 興国寺城跡へのアクセス

(3) 周辺の歴史文化資産の分布状況

原・浮島地区は先述した井出丸山遺跡など旧石器時代の遺跡をはじめ、石川古墳群や井出丸山古墳などの100基以上が密集する古墳群、中世には源頼朝の異母弟阿野全成の館跡であったといわれる大泉寺、近世では愛鷹山麓内に所在する赤野観音堂（市指定建造物）や白隠禅師が修行した伝承が伝わる八畳石のほか、海沿いには千本松原や原宿があり、東海道随一の名園といわれた帯笑園（国登録）や、白隠禅師ゆかりの松蔭寺をはじめとする寺院など多くの文化財が所在している。また浮島低地周縁の集落には、昭和までこの低湿地で使用されてきた特有の農耕用具（県指定）も重要である。

歴史的にはこの地域はかつて阿野庄とよばれた地域の東半に位置し、阿野全成の領地に由来するともいわれる阿野庄の範囲には、富士市の東部も含まれる。このことから富士市東部とは歴史性に加え、地理的連続性や地形的特徴の共通性を有しており、歴史文化資産の特徴にも共通性がみられる。

以上のように原・浮島地区は歴史文化資産が特定の範囲に集中している地域であることから、沼津市文化財保存活用地域計画では、その周辺環境を含めて面的に保存・活用するため、興国寺城跡を「戦略的歴史文化資産」として位置づけ、さらに文化財保存活用区域「興国寺城跡・白隠の里周辺 ～東西を結ぶ道の集中地帯～」として設定している。

なお、本地域に所在する原・浮島地区周辺における指定・登録文化財は第2-3表のとおりである。

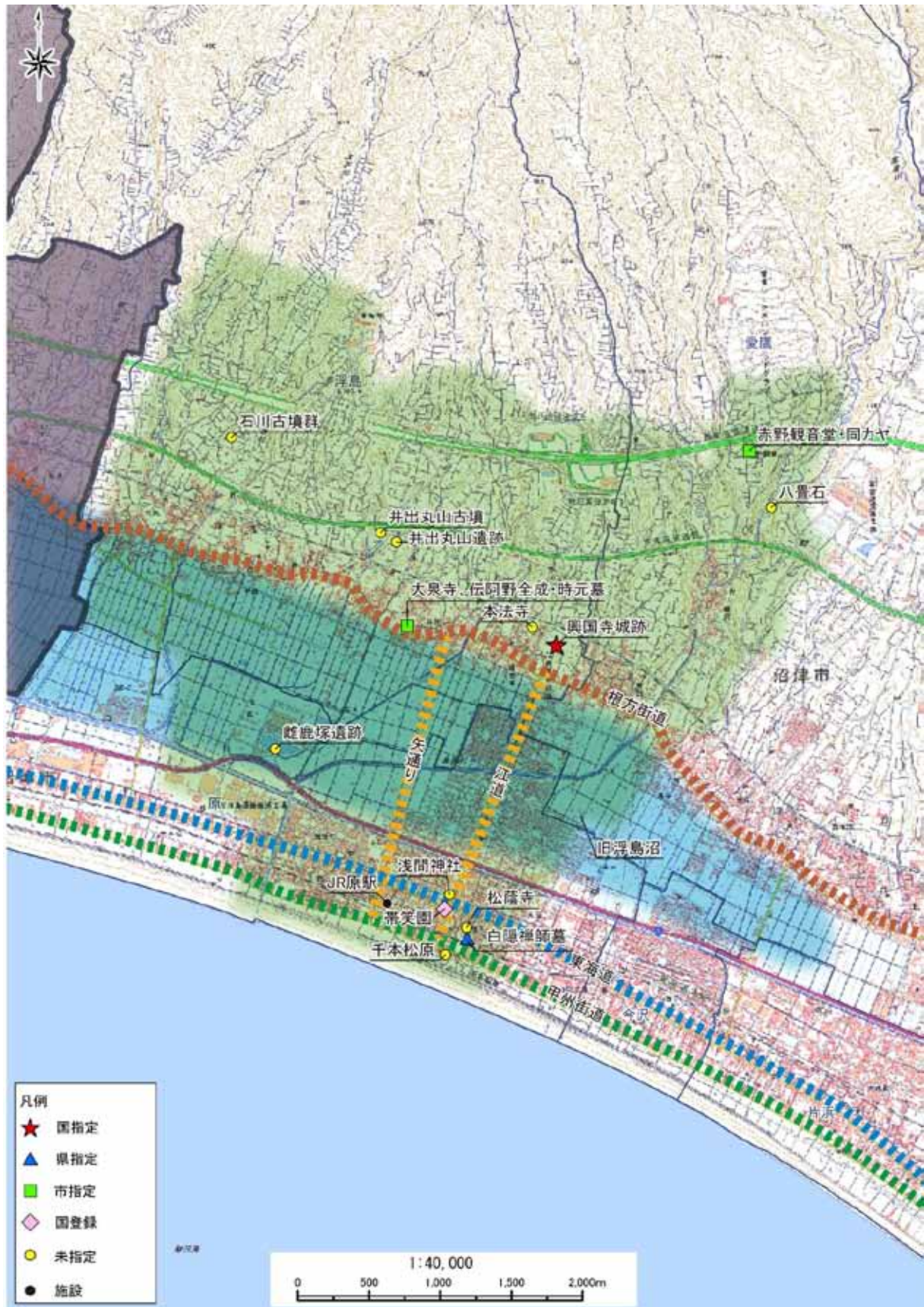
第2-3表 原・浮島地区の指定文化財等一覧

指定等	種 別		名 称	所 在
県指定	絵画		白隠自画像	原東町
県指定	典籍		科註妙法蓮華經	原東町
県指定	史跡		白隠禅師墓	原東町
県指定	有形民俗		浮島沼周辺の農耕生産用具	歴史民俗資料館※
市指定	彫刻		木造白隠禅師坐像	原東町
市指定	史跡		伝阿野全成・時元墓	井出
国登録	建造物	有形文化財	松蔭寺開山堂	原東町
国登録	建造物	有形文化財	松蔭寺山門	原東町
国登録	記念物	名勝地関係	帯笑園	原西町

※沼津市島郷地内に所在する沼津市歴史民俗資料館が所蔵



第2-9図 周辺の文化財（左：伝阿野全成・時元墓 右：帯笑園）



第 2-10 図 興国寺城跡・白隠の里の周辺保存活用区域の範囲と現地見学が可能な主な歴史文化資産

(4) 法規制の状況

興国寺城跡の保存活用には文化財保護法のほか、急傾斜地崩壊危険区域等による災害の防止に関する法律、愛鷹山の山裾という立地から環境や都市計画に関する法律などが関係する。以下に関連法規を整理する。

1 文化財保護法

興国寺城跡は史跡指定地に該当し、指定地内において現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為（以下、現状変更）を行おうとする場合、文化財保護法第125条の規定に基づき、文化庁長官の許可を得る必要がある。

2 防災関連法

史跡指定地内の急傾斜地周辺は、隣接する宅地の安全確保等から制限が存在する。

a 急傾斜地崩壊危険区域（急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律）

県知事ががけ崩れ災害から人命と国土の保全のため、急斜面地の崩壊が助長され、又は誘発させる恐れがある行為が行われることを制限する区域を指定する。範囲内において次の行為を行うにあたっては、県知事の許可が必要となる。

1. 水を放流し、または停滞させる行為や水の浸透を助長する行為
2. ため池、用水路等の急傾斜地崩壊防止施設以外の施設又は工作物の設置や改造
3. 法切、切土、掘削又は盛土
4. 立木竹の伐採
5. 木竹の滑下又は地引きによる搬出
6. 土石の採取又は集積
7. その他、急傾斜地の崩壊を助長し、又は誘発するおそれのある行為で政令で定めるもの

b 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域（土砂災害防止法）

土砂災害警戒区域は、傾斜地の勾配や高さ等の条件に基づき県が指定する区域で、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われる。

土砂災害特別警戒区域は、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域を県が指定する。特定開発行為（住宅宅地分譲、災害時要援護者関連施設のための開発行為）は許可制である。また、建築基準法に基づき、居室を有する建築物の構造耐力に関する基準が設定されている。建築物の移転等の勧告が行われることがある。

c 宅地造成及び特定盛土規制法

盛土等による災害の防止を目的とする。整備においては土塁等の修景に伴う盛土が行われる計画であることから、詳細は第6章6-5(3)に示す。

3 環境関連法

a 地域森林計画対象民有林（森林法）

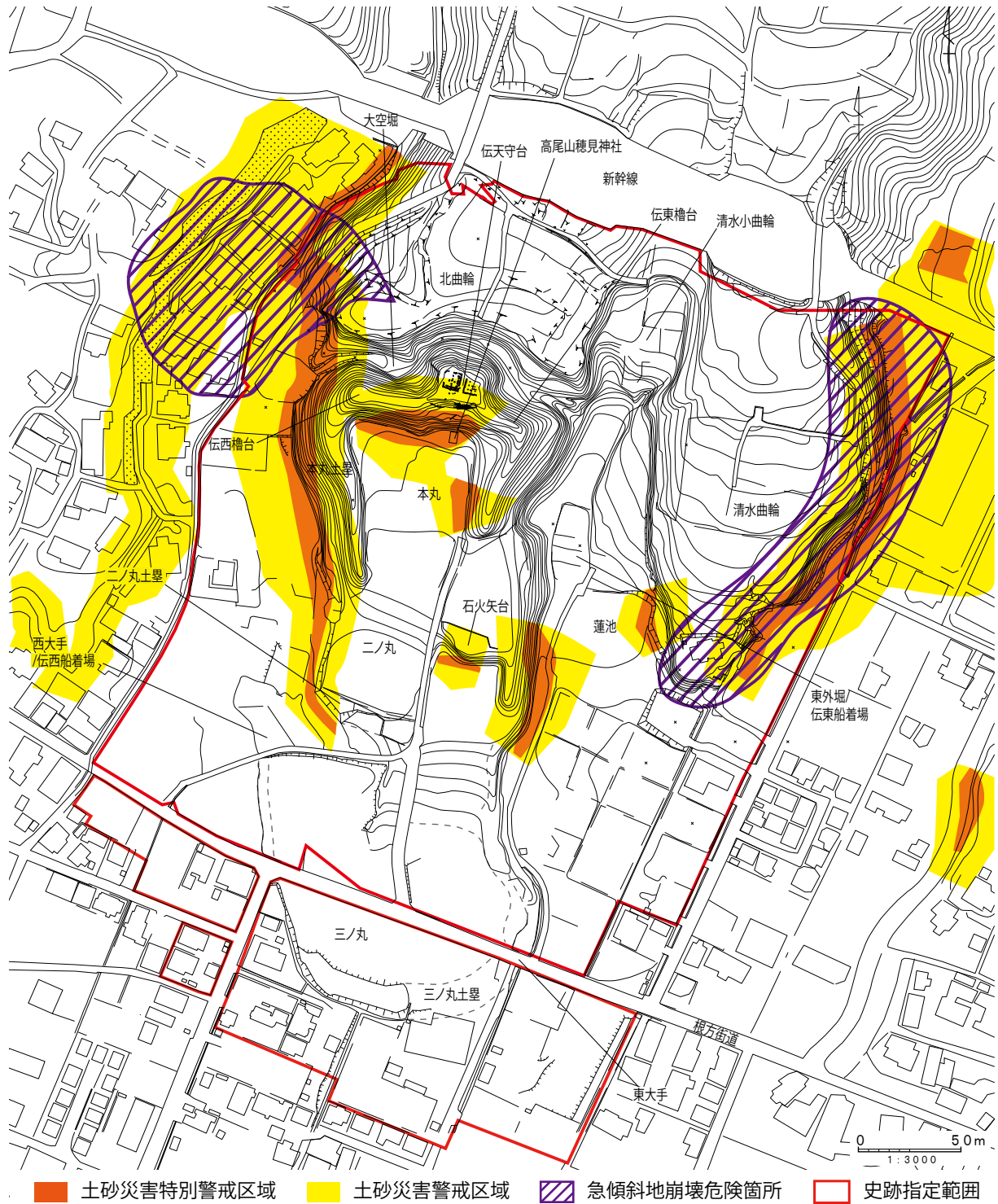
地域森林計画対象民有林の1haを超える森林を開発するときは、都道府県知事の許可を受けなければならない。ただし、国又は地方公共団体が行う場合は、許可の適用外になる。

b 農地（農林法）

農地法に基づき、農地への他用途への転用、売買、利用権設定等には制限が存在する。

c 静岡県盛土等による環境の汚染の防止に関する条例・沼津市盛土等の規制に関する条例

生活環境が脅かされることがないように盛土等を規制する。詳細は第6章6-5(3)に示す。



第 2-11 図 防災関連法適用現況図

4 都市計画関連法

a 都市計画区域・市街化調整区域／市街化区域・用途地域（都市計画法）

史跡内は全域が市街化調整区域となっている。市街化調整区域は、市街化を抑制する区域であり、開発行為は原則として認めらず、建築行為等を行うためには都市計画法第33条の基準等の基準に適合して、開発許可を受けなければならない。

また住宅、工場、教育施設等の目的で行う土地の区画形質の変更である土地利用事業に該当するもので、2,000㎡以上のものは沼津市土地利用事業指導要綱に基づく指導の提要範囲となる。ただし、国または地方公共団体の行う土地利用事業については特に市長が認めたものについて適用される。

b 河川保全区域（河川法）

区域内の占用や工事、土地の掘削、盛土又は切土その他土地の形状を変更する行為、工作物の設置等を行う場合、河川管理者の許可を受ける必要がある。

c 建築物（建築基準法・静岡県建築基準条例）

一定規模以上の建物を建築する場合、法令に則り建築確認申請手続きが必要となる。静岡県建築基準条例には、災害危険区域の指定や建築物の敷地、構造等に関する規定があり、がけ付近の建物についての制限が定められている。

d 屋外広告物第1種特別規制地域（屋外広告物法・沼津市屋外広告物条例）

史跡内で広告物を表示し、または掲出物件を設置してはならない。